

## 全国都市再生モデル調査概要

1. 応募団体名	大船渡市 担 当 商工観光部港湾振興推進室 松川伸一、平野辰雄 連絡先 TEL 0192-27-3111 (内線 116) E-mail syo-ko1@city.ofunato.iwate.jp
2. 調査名	海にひらこう岩手の国際化プラン(国際港湾都市と地域背後圏の連携計画)
3. 推薦団体名	
4. 調査の対象地域	
対象となる行政区域名、地区名等	大船渡市(大船渡港地区)、盛岡市(繫地区)、江刺市(蔵町モール地区)、平泉町(中尊寺地区)、一関市(田村町地区)
対象となる行政区域及び地区の特徴	大船渡市:人口43,632人(大船渡港地区・中心市街地)、盛岡市:人口287,900人(繫地区・温泉観光地)、江刺市:人口32,829人(蔵町モール地区・中心商店街)、平泉町:人口8,789人(中尊寺地区・寺町観光街)、一関市:人口63,058人(田村町地区・中心市街地)
5. 提案した活動の内容	
テーマ、課題	岩手県内陸地方の各市町村と沿岸地域(大船渡市)とが連携し、港湾を中心とした国際交流をテーマに情報交換、交流会を開催し、各地域の市民とともに文化・生活・産業・観光等の相互理解を深めると同時に、国際的な「町と人づくり」を進める。
本調査費による活動内容の概要	1. 各地域の有識者を構成員とする委員会「海にひらこう岩手の国際化委員会」を発足。 委員会2回開催(16年12月23日他)、6人参加。  2. 大船渡市が計画している国際港湾都市を各地域の子供たちに紹介するとともに、岩手県に在住する外国人の体験談等を聞きながら未来を担う子供を育成。 大船渡港の取材と国際交流会1回開催(16年11月22日~23日)60名参加 岩手大学留学生等の体験談や日本の感想を聞き国際感覚を学ぶ。 学校、学級新聞を発行。



こども新聞記者による大船渡港の取材

3. 地域の文化・観光や商業の視点から地域住民の相互理解を深め地域経済の発展を図る。

意見交換会等 38回開催（16年6月30日他）、40人参加。

シンポジウム 1回開催（16年12月19日）、110人参加。

ワークショップ 1回開催（17年3月5日）、35人参加。

フォーラム 1回開催（17年3月5日）、100人参加。



4. 地域情報を集約するため各地域に情報発信・収集できるサテライトを設置し地域振興を図る。

サテライト4箇所設置、（盛岡市：繫地区、江刺市：蔵町モール地区、一関市：田村町地区、大船渡市：大船渡港地区）



5. SOLAS条約改正により、港湾がフェンスで隔離されるため、港湾と市民の憩いの場を創出する。

ワークショップの開催により、各市民から「みなとまちの宝」と「みなとまちの課題」等の意見を集約。

6. 本調査と関連する活動実績

7. 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など

1. 地域間連携

市町村間の連携を検討する中で各地域の現状と課題を把握し、相互の共通する課題や各地域の振興策等の苦勞する点を共有することができた。今後は各地域の振興策について継続して取組むことになった。



2. 人材育成・国際交流

海の恩恵や港湾施設等の機能を生涯学習等の機会をとらえて絶えず説明する努力が必要であると感じた。特に、生活に必要な物資の99.7%を海上輸送が担っていることの認識が少ないことが把握できた。

岩手県在住の外国人留学生等との国際交流会においては、外国人から見た日本、岩手県などの感想を聞く子供達は、異文化に接する感動と、日本に留学する大学生の努力する姿を見て感化されていた。

また、外国人留学生からは日本の子供達と接することが出来て大変貴重な体験が出来たと好評であった。

なお、こども新聞記者として、大船渡港を取材するとともに、外国人留学生等との交流内容を学校新聞に編集し発行することにより、活字離れが叫ばれる今日、学習能力の向上に大変有意義であったと、参加した各学校の先生方から感想を受けた。



3. 意見交換会等

地域振興策を探るため実施した意見交換会等では、各市民・市民団体等の意見は一致しており、これまでに個々で実施してきた取り組みを、多くの市民や市民団体等と協働して実施する「まちづくり」の重要性が確認された。

シンポジウムの開催では、各地域の「まちづくり」先進事例の紹介、パネルディスカッションを実施し、まちづくり成功事例の

紹介にあたっては、市民や市民団体等が勇気付けられる有意義な機会となった。

フォーラムの開催においては、これまでに実施してきた都市再生プロジェクト推進調査の経過を報告するとともに、実施する過程で体験できた内容等の提言を各市民団体が発表した。



甘竹勝郎大船渡市長



宮城教育大学非常勤講師  
民俗研究家 結城登美雄氏

#### 4. サテライトの設置

各地域（岩手県内陸）の有識者を構成員とする「海にひらこう岩手の国際化委員会」委員の協力を得て、沿岸地域である大船渡市のPRを実施していただくこととなった。

#### 5. 港湾と市民の憩いの場の創出

ワークショップの開催においては、地域の資源を再発見することを目的として、「みなとまちの宝」と「みなとまちの課題」等の意見を集約することができた。今後は既存資源等を有効に活用して地域振興を行っていくことになった。



#### 6. 本調査の成果

本調査を実施する中で、各市民団体の積極的な活動を再認識するとともに、各市民団体の課題は多いが取組むべき目標は各団体とも一致していることが把握できた。

また、本調査を契機に新たな「まちづくり」の取組みを行う原動力が芽生え、「大船渡みなとまちづくり推進協議会」が発足することとなった。

#### 7. その他類似の取組みを行う場合の留意点

各地域との地域間連携においては、各都市の市民団体活動が盛んな地域との連携については、相互理解が早いものの、市民団体等の活動が少ない地域との連携には少し時間を要する。